





「十五夜  
お月様～」

家計に身近なファンドでありたい

浪花おふくろ投信発

おふくろ便り vol.1

2008.9.16

大阪市中央区内本町 1-1-8  
アブリコ 201 〒540-0026  
06-4790-6200  
浪花おふくろ投信株式会社



浪花おふくろ投信株式会社

取締役  
中井朱美

## ～ 投資の儲けはあぶく銭?! ～

私は 25 年間税理士として中小企業の経営全般に係ってきました。そして汗水流して得た利益こそ本物であり、価値があり、株式投資のように売った買ったで儲けたお金はあぶく銭で身につかず、自分としてはこういうものを認めたくないという気持ちがずっと強かったのです。

そんな私が、今、投信会社を立ち上げ長期投資を通して一般家庭の財産形成のお手伝いをしようとしているのですから世の中おもしろい!!

会計事務所を開業して約 10 年間は高度成長期で多くの企業がすごい勢いで成長の波にのっており、社長の顔が忙しいけれど笑顔でいっぱいでした。おかげさまで、顧客もどんどん増え、今日より明日、明日よりあさっては確実によくなると思える毎日でした。

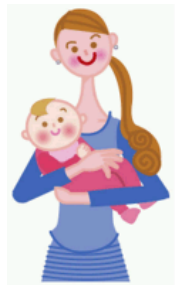
それがバブル崩壊後は一転して、まず大企業の下請けはずしや、銀行等の貸し渋りなど中小企業に大きな傷手となり、顧客の半数以上が赤字転落という状況に陥りました。こうなると縮み思考が蔓延してきて、人員削減、賃金カット、経費削減(下請への値引き圧力)etc.社長の顔が暗く沈むようになり、税理士の役割はそういう社長を元気づけることでした。

そんな中で、好況の時からコツコツといざという時のための資産づくりを 10 年、20 年と継続している企業は、本当に業績が悪くなった時それらの資産の一部を取り崩し赤字を補てんしたり、運転資金を捻出したりして体制を立て直すゆとりを持つことができる...そういう企業は、赤字から黒字へ脱出することに成功しています。

それとは対照的に、会社に資産を積み立てしてこなかった企業は、不況の荒波を越えられず、その多くは倒産、廃業していきました。

身近にこういう例を見てきて、私自身切実に思ったことは、企業も個人も長生きするためには一定以上の財産形成が必要であるということです。しかしながら、銀行に預けても年 1%に満たない金利や、生保の年 1.3%の予定利率ではお金は殖えないのです。

財産形成の必要性はわかっているも、お客様にすすめられる金融商品がほとんどない状況でした。そんな折、長期投資の勉強会に参加し「種をまき水をやり、愛情を持って育てやがて実りを収穫する」この農耕型の投資が長期投資であり、私にはこれは子育てに似ていて誰にでもできるとてもシンプルな方法ではないかと直感的に感じました。



2000 年 8 月より、長期投資を実践してきて、荒波にも遭遇しヒヤヒヤ・ドキドキもしてきました。しかし長期投資のリズムを時間をかけて身につけると不思議なことに少々の相場の上下は気にならず、むしろ下げ相場はバーゲンセールのような快感です。

おふくろファンドの強みは、金融業界出身ではない 2 人が立ち上げたからこそ、投信を売る側の論理はいっさい持ち合わせておらず、あくまで生活者であり、投資家である立場から、こんな投信あったらいいなあと思える、安心して預けられ、財産形成のできる投信づくりができることです。そして結果として長期投資を通じ世の中に役立っている企業を応援し、社会に貢献できることです。長期投資による利益はむしろ経済の下支えをしたご褒美であり、その果実は大きく、経済面はもちろん、精神面でもゆとりのある人生を歩めることと思います。

このレポートは、浪花おふくろ投信からの情報提供を目的として浪花おふくろ投信が作成したものです。このレポートに記載されたグラフ、図表、数値、経済見通しその他のいかなる内容も作成日時点のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。浪花おふくろファンドにかかるリスク、コストについての詳細、お申込み方法等については投資信託説明書(交付目論見書)および約款・規程集、弊社ホームページ(<http://www.728ofukuro.co.jp>)をご覧ください。投資については、ご自身でご判断ください。



「十五夜  
お月様～」

家計に身近なファンドでありたい

浪花おふくろ投信発

# おふくろ便り vol.1

2008.9.16

大阪市中央区内本町 1-1-8  
アプリコ 201 〒540-0026  
06-4790-6200  
浪花おふくろ投信株式会社

## おふくろ目線で企業を watching

～どんな会社に投資しているのか、もっともっと知りたい！～

組入れファンドの月次報告書より抜粋してみました

### 第1回はジョンソン・エンド・ジョンソン

～TMA 長期投資ファンドの6月30日作成月次報告より～

「おふくろファンド」は、組入れファンドを通じて、「J&J」に投資しております。



#### ファンドマネージャー・コメント

TMA 長期投資ファンドは、投資先の企業が「どんな会社なのか？」という、受益者の皆さんの疑問に答えるために、主たる投資先企業を紹介しています。TMA 長期投資ファンドが、どのように投資先企業に魅力を感じているかという点を紹介することで、受益者の皆さんが、よりよく当ファンドの投資姿勢を納得していただけたら幸いです。

なお、下記コメントはTMA 長期投資ファンドの基準日('08.6.30)現在の組入れ銘柄の紹介であり、将来変更する可能性があります。また、特定の銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。

今回、ご紹介するジョンソン・エンド・ジョンソン(Johnson & Johnson、以下J&J)は、経営者と従業員が一丸となって、企業価値の向上に取り組んでいる企業の筆頭格で、1886年の創業以来、売上高水準が前年を下回った年が2年しかないという安定成長企業でもあります。J&Jは、バンドエイドや絆創膏、ベビーパウダー、使い捨てコンタクトレンズのアクキュービューなど、その製品が日本でも有名であることから、消費者向けヘルスケア商品の会社であると思われがちですが、外科手術に関する医療機器、製薬企業としての医薬品の提供、といった三つのビジネスをバランスよくミックスした企業なのです。

J&Jで、特に強調したいのは、企業理念とその実践についてです。社是や企業理念といったものは、多くの企業に存在しているものの、現場の従業員一人ひとりの業務の中や経営者が意思決定をする際のベースになる考え方として取り入れられている例は少ないのが現状でしょう。しかし、J&Jの奥には、常にこの理念および行動指針である「クレドー(我が信条)」から考え、悩んだら「クレドー」に立ち返るという姿勢を貫き通しているところ。だからこそ、世界中に分権化された数百にも上るファミリー企業を抱えていても、企業DNAを共有することができるわけです。分権化により各地域の実情に合わせた経営ができるメリットも、それを統一するバックボーン(背骨)が無ければ、コスト増や利害の衝突などのデメリットで相殺されてしまいがちですが、このような事態に陥らないでいられるのも、J&Jには「クレドー」があるからなのです。

この「クレドー」では、一体どのようなことを言っているのが興味を湧くところ。大きく分けると、消費者(顧客)に対する責任、社員に対する責任、地域・共同社会に対する責任、株主に対する責任の4つになります。興味深いのは、株主に対する責任が4番目に来ているところです。米国を中心とする企業なのだから株主利益を最大限に考えるのではないかと想像しやすいのですが、まったく違っているのです。

大切なことは、消費者や社員、そして地域に対する責任を果たすならば、自然と株主も満足する成果を得ることができるという、徹底した信条をJ&Jが持っており、実際に実践し、そして結果を出しているということです。また、「クレドー」の初版は、すでに1935年に公表し、1943年にはその現代版を公表していたという先見の明に脱帽せざるを得ません。最近、私たちが耳にするようになった企業の社会的責任という考え方を、半世紀以上も前から描き、企業行動の中に反映させてきたからです。

この社会的責任を果たすという考え方が、実際の行動として私たちが知るようになったのは、「タイレノール事件」です。全米のほとんどの家庭で常備薬として使われていた鎮痛剤タイレノールに関する事件は、J&Jの「クレドー」が絵空事でないことを証明することになるのです。事件は、悪意の第三者によって、タイレノールに毒物が混入され、シカゴで7名の犠牲者がでてしまったというもの。事件に対するJ&Jの対応は素早く、「クレドー」の消費者に対する責任を果たすために、躊躇なく商品を市場から素早く回収し、事件の事実を包み隠さずメディアを通して誠実に消費者に知らせたのです。企業にとってのピンチをチャンスに変える原点は、消費者に対する責任を果たすという一点にあったのです。現在の「クレドー」には、「我々の第一の責任は、我々の製品及びサービスを使用してくれる医師、看護師、患者、そして母親、父親をはじめとする、すべての顧客に対するものであると確信する」とうたわれており、その通りの行動がJ&Jの歴史にはあるのです。

たとえ「タイレノール事件」という「黒石」が迫ってきても、それを「白石」にひっくり返していくという姿勢が大切なのでしょう。このような姿勢で、持続的に社会に貢献していこうとする企業は、持続的な安定成長を成し遂げ、長期投資家である私たちにも安定的なリターンを長期にわたり提供してくれると考えています。

参考1:クレドーは、下記で見ることができます。

<http://jn.jco.jp/group/community/credo/index.html>

参考2:J&Jを知るための本…山下辰夫・中村元一「成功経営の法則 ジョンソン・エンド・ジョンソンのグローバル・スタンダード」(ダイヤモンド社2001年)



「バンド・エイドといえば、テニスの部活をしていた私のカバンの中には必ず入っていたわ。あれも、J&Jだったのね。ああ、青春の1ページやね。思い出すわあ～(石津)」

このレポートは、浪花おふくろ投信からの情報提供を目的として浪花おふくろ投信が作成したものです。このレポートに記載されたグラフ、図表、数値、経済見通しその他のいかなる内容も作成日時点のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。浪花おふくろファンドにかかるリスク、コストについての詳細、お申込み方法等については投資信託説明書(交付目論見書)および約款・規程集、弊社ホームページ(<http://www.728ofukuro.co.jp>)をご覧ください。投資については、ご自身でご判断ください。



「十五夜  
お月様～」

家計に身近なファンドでありたい

浪花おふくろ投信発

# おふくろ便り vol.1

2008.9.16

大阪市中央区内本町 1-1-8  
アブリコ 201 〒540-0026  
06-4790-6200  
浪花おふくろ投信株式会社

## 金融 証券に係る税制改正点 (平成21年1月1日施行)

来年から株式の配当や売買益に係る税金の改正があり、どうなるのというお問い合わせも何回かありました。まだまだ変わる可能性もありますが、現時点でわかっているところを説明させていただきます。

将来的には金融一体課税(利子や、配当、株式等の譲渡所得など一つの金融資産として同じように取り扱う)で一律20%の課税となる予定ですが、景気回復がいまひとつの現状なので、国はもっと貯蓄から投資への流れを広めていきたいと考えています。

そこで、平成21年22年の2年間に限り、配当所得や、株式等にかかる譲渡所得について、特例として現在と同じ税率10%になりました。但し金持ち優遇といわれぬように年間配当額が100万円を超える場合や、株式等の譲渡益が年間500万円を超える場合には原則どおり20%になります。また、高齢者の方にもっと預貯金から投資へお金を動かしてもらおうと年間配当額100万円以下を無税にしたり、株式等の譲渡益が年間500万円以下を無税にする案や、小口投資家を対象に10年間の累計配当額1000万円まで無税にする案が浮上しています。いずれにしても多くの方々にとっては有利な改正になる方向です。ここはじっくり腰を据えて相場に踊らされずにゆったりと長期投資のリズムを身につけましょう!

## 「ねえ、知ってはる？」

### ～ 生活に役立つミニコラム ～

弊社主催ライフプランセミナーの内容の一部をコラムにしました。



## 厚生労働省「患者調査の概況」より

### 在院期間の構成割合(病院)

平成17年厚生労働省「患者調査」より

0～14日	62.9%
15日～30日	17.3%
1カ月～3カ月	14.1%
3カ月～6カ月	3.4%
6カ月以上	2.1%
不詳	0.3%

厚生労働省は3年ごとに全国の医療機関の協力を得て、病院及び診療所等を利用する患者について、その傷病状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的とする調査を行っています。左は平成17年9月中に退院した患者の在院期間(病院の場合)をまとめたもので、平均の在院日数は37.5日です。平成11年、14年と比較してみると、39.3日 37.9日 37.5日と徐々に短くなっています。カゼでも大病院へ...のような大病院偏重を是正し、必要な治療レベルによる病院のすみわけも進んできましたから、もはや軽快した患者が病院で長期療養生活を送ることは困難になりました。

では万一の長期療養に対応するためには、どうすればいいのでしょうか?

まず、国民健康保険や民間企業に勤める人が加入する健康保険等公的な医療保険の実力を確認することが大切です。その上で、「足りない、不安だ」と思う部分を貯蓄や民間の保険などで合理的に手当てしましょう。

民間の医療保険の場合、「どんな時に、どのような給付が受けられるか」をしっかりと確認することが大切です。いざという時のために保険に加入するものですが、あれもこれも...と欲張りすぎると、毎月の保険料負担が重くなります。例えば360日型 90日型のように、1回あたりの入院期間を見直すだけでも保険料は下がります。

94.3%が  
3カ月以内の入院

このレポートは、浪花おふくろ投信からの情報提供を目的として浪花おふくろ投信が作成したものです。このレポートに記載されたグラフ、図表、数値、経済見通しその他のいかなる内容も作成日時点のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。浪花おふくろファンドにかかるリスク、コストについての詳細、お申込み方法等については投資信託説明書(交付目論見書)および約款・規程集、弊社ホームページ(<http://www.728ofukuro.co.jp>)をご覧ください。投資については、ご自身でご判断ください。